

# 高濱正伸さん

〔花まる学習会〕代表

## 官民一体型の小学校、始まる

「魅力的な人、そしてメシが食える大人」を育てることをモットーにした人気学習塾として熱い注目を集める「花まる学習会」。今年四月、佐賀県武雄市と「花まる学習会」が「官民一体型学校」の創設を発表して話題を集めたが、どのような教育を目指すのか、代表の高濱正伸さんに聞いた。

誰も何も変えようと思わない教育の歪み

——絶対に相容れないと思われていた公立学校と学習塾という組み合わせで「官民一体型学校」を創設するとのことですが、経緯を教えてください。

「花まる学習会」を始めたそもそもの目標として、公教育改革が本丸にあつたんです。教育界だけの問題ではありませんが、経済的・社会的・精神的自立ができていない「自分でメシが食えない大人」を量産し、引きこもりの若者を増やしてしまっている社会に対して、

当時から問題意識がありました。

しかも、誰もその危機的状况を変えようと行動を起していません。むしろ「メシの食えない大人」を増やし続け、結果として事件に発展するケースまで出てきています。

その一方、引きこもりは社会の被害者なのに、「そんなことでどうする」と被害者を糾弾するばかりなのが今の社会です。糾弾社会の中で、先生も役人も、そのターゲットにされ、炎上するのは怖い。「この校長は体罰肯定派だ」などと報道でもされたら大変ですからね。そのため守りに回って萎縮した教育がなされ

ていて、大らかでいい間合いの教育が行なわれにくくなっていきます。

でも実際の社会は理不尽だらけです。接客業を例にとれば、変な客が来て無理難題を言ったりすることはあるわけで、理不尽が存在するのは社会では当たり前です。力づくで押さえつけようとする厳しい現実もあります。そういうことを誰も子供たちに教えない。子供たちは甘やかされ、人を傷つけちゃいけない、ケンカはダメと親や教師から言われ、人の中で揉まれた経験もなく育てられてしまう。すると、いざ社会に出て嫌なことに出くわすと対応ができず、心の折れやすい大人になってしまふ。

「花まる」を立ち上げる前から、偽りの教育のもとで社会に巣立っていけない若者を見てきて、自分の中に「大本の公教育を変えなくては」との思いがずっとあったんです。外遊びで滝壺に飛び込ませるみたいな教育をしたいと思ってたんですが、教育委員会は受けつけないだろうなと(笑)。

そこでどこまでできるかわからないけれど、塾やってみようと思ったわけです。いつか道が開けたら、公教育に関わればいいな、と。

官民一体の改革は特区として行なえばいいという意見もあったんですが、樋渡市長は、ほかの地域でも誰もが真似できる仕組みづくりが重要だという考え方で、いまある仕組みの中でやることになりました。

### 一分間の会話から生まれた信頼

——この改革にはもう一人、民間人初の中学校校長を



●たかま・まさのぶ 一九五九年熊本県生まれ。東京大学・同大学院卒業。学生時代から予備校等で受験生を指導する中で、学力の伸び悩みや人間関係の挫折などの諸問題が幼少期の環境と体験に基づいていることを確信し、九三年に「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を重視した学習習教室「花まる学習会」を設立。今年四月から佐賀県武雄市で始まった公立小学校での授業のほか講演会、地域の子育てを支えるNPOなど幅広く活動中。

——やっと念願が叶ったということでしょうか。

そうですね。学校教育については九年前に、長野県の小学校で月に一回一単元だけ思考力の授業を持つていいという機会を与えられました。でも先生方からすると、よそ者の時間がポツンとある感じだったと思います。子供たちは楽しいはずだし、月一でも成果が出る仕組みで頑張っていたんですけど、もっとその成果を追求していくことはできなかった。小学校の先生一人ひとりとは仲よくなれるという自信はつきましたが、組織とかけあつて仕組みの中に入っていくことまでは絶対やらせてもらえなかったですね。

——とうとう重たい扉が開かれた、と。

武雄市との経緯でいうと、樋渡啓祐市長が公教育のあり方を変えたいというすごい構想を持っていて、いまままで滞つてできなかったものもろの改革をすつと実行に移してしまつたんです。面白いことをやりたいという人はたくさんいますが、強固な岩盤に穴をあけてどんどん前に突き進んでいく人はなかなかいません。もともと役所出身だったということはありますが、このことを押せばきつと改革の道が開けるということを見通すことができた稀有な方です。

務めたことでも知られる藤原和博氏が深く関わっているそうですが。

藤原さんとは、はじめをテーマにしたテレビの討論番組で一緒になりました。討論者は六人くらいでしたが、たまたま彼と隣り合つて座つたんです。コマシヤルの間に話をしたら、やたらと意見が合うというか、この人は本物の教育者だなと感じて。企業人としての安泰を捨てて校長を選んでいきますし、自分がやるしかないと覚悟を決めているところも似ていました。そのコマシヤルの時間に仲よしになって、今後一緒にやりましょうと意気投合したわけです。

——本当にわずかな時間ですね。

一分そこらの間にビビッときました。まず私のことを知つてもらうためには講演会に来てもらうのがいいというところで約束をしたんですが、そのすぐあとに各界のリーダーが集まって日本再生に向けて話し合う「G1サミット」という面白い会があり、そこに藤原さんと樋渡さんが参加して一緒に朝食を食べていたら、樋渡さんが官民一体の学校を考えていると話を始めたそうです。驚いて藤原さんは食器を落としたって言っていました。さらに、「そんなことしたら刺されるぞ」っ